



株式会社エスラインギフ

## 「燃料サーチャージ制」について (2023年8月1日改定)

弊社では、2008年8月に国土交通省に燃料サーチャージ料金の届出を行い、同年10月より適用実施しております。

私ども運送業界における主要経費である燃料費（軽油費）は、世界の政治や経済状況等の変化による原油市況の価格変動により大きく左右され推移しています。原油価格は世界的な金融引き締めにより需要が減速していますが、中国やインドでは燃料使用が拡大しており、OPECは来年の需要が増加する見通しであることを発表しました。その中でOPECプラスでは現行の減産計画の延長が合意されましたが、他方で世界的に多くの潜在的不安要素を抱えており、先行きは引き続き不透明な状況となっています。軽油価格は昨年より政府の「燃料油価格激変緩和対策事業」が講じられ抑制されてきましたが、6月より段階的に縮減、9月末に終了することとなり、今後はさらに高値で推移するものと考えられています。

そうしたなか、弊社におきましても経営環境の変化に対応すべく全力を挙げて様々な経費削減に取り組んでいるところでありますが、軽油価格はますます高値で推移することが見込まれるなかで、安全装置や環境対応による新型車両の値上げ、さらには2024年問題に対応するため労働環境の改善実施等、企業収益が一段と圧迫される状況となっております。

よって、誠に恐縮ながら、引き続き燃料サーチャージ制の適用と、サーチャージ料金收受につきましてのご理解ご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

### **燃料サーチャージ制とは**

燃料サーチャージとは、燃料価格の上昇・下落によるコストの増減分を別建ての運賃として設定する制度です。現状の燃料価格が基準とする燃料価格より一定額以上上昇した場合には、上昇の幅に応じて燃料サーチャージを設定又は増額改定して適用するものです。一方、燃料サーチャージの設定時点より下落した場合には、その下落幅に応じて減額改定し、また、燃料価格が沈静化し、基準とする燃料価格より低下した場合にはこれを廃止致します。

## 【現在の料金適用燃料価格】

※価格は全て資源エネルギー庁発表の石油製品価格調査(軽油現金価格)の中部運輸局管内の平均単価を使用

[https://www.enecho.meti.go.jp/statistics/petroleum\\_and\\_lpgas/pl007/results.html#headline1](https://www.enecho.meti.go.jp/statistics/petroleum_and_lpgas/pl007/results.html#headline1)



## 適用期間：2023年8月1日～2023年10月31日ご出荷貨物分

方式：集荷＋配達＋幹線の合計サーチャージ（全日本路線連盟方式）

基準価格：基準時の店頭価格 77.7円/ℓ / 2008年8月届出時（6月）の店頭価格 152.0円/ℓ  
⇒ 上昇額：74.3円/ℓ

適用価格： 対象月 軽油単価

2023年4月	147.7円/ℓ
2023年5月	147.6円/ℓ
2023年6月	149.3円/ℓ

3カ月 平均 148.2円/ℓ  
⇒ 上昇額：70.5円/ℓ

適用運賃表：⑦を使用（140.0円超～150.0円）

注）上昇額に応じた適用運賃表を使用し、適用しています。

改定条件：3ヶ月間の店頭平均価格を計算し、3ヶ月間の最終月の翌々月から改定します。

廃止条件：3ヶ月間の店頭平均価格が77.7円/ℓを下回った場合、3ヶ月間の最終月の翌々月から廃止します。

適用につきましての詳細は、最寄りの支店までご連絡下さい。

HPでの検索は → <https://sline.co.jp/group/search.php> より